

第22回対馬少年の主張大会最優秀作品

違い

鶏知中学校2年 薄本優



「トランスジェンダー」「性同一性障害」最近耳にするようになったこの言葉を聞いて、みなさんは何を考えますか。（あるべき性で生まれてこなくてかわいそう）（男か女か分からないなんて気持ちが悪い）そう思う人も中にはいることでしょう。

私は2年前、友達に勧められて、ネットで活動している性同一性障害の方に出会いました。その人は、初め女性として活動していましたが、その後男性として活動。2017年には自らが「性同一性障害」であることを公表し、これまでの人生や公表した理由を語る動画を配信していました。この動画を見たときの衝撃と感動。いくつもの感情が押し寄せ、私の心を震わせました。そして、この出会いが、私の中に大きな影響を与え、自分のこと、今までのことを見つめ直すきっかけとなりました。

私はこれまで転校を繰り返し、さまざまな人に出会ってきました。その中で1番驚いたことは「一人称」です。自分のことを下の名前と呼んだり、あだ名と呼んだり、女の子が「僕」を使う、男の子が「私」を使う。でも、周りではそれを受け入れている。そんな友達に出会ったとき、最初は違和感がありましたが、周りの環境に慣れていくにつれて、何事でもなくなっていました。その環境に慣れてしまえば、違和感や驚きは何事もないことになっていく。それならば、トランスジェンダーという性別、障がい者という個性が何事でもなくなるために1番必要なのは、「周りが受け入れることができる環境をつくること」ではないかと考えるようになりました。当事者が声を上げることが先じゃない。その人の大切な個性を周りのせいでつぶしてしまう前に、認め、受け入れ、何事でもないことと気づける人、そして環境が必要だと思うのです。

今年の4月、島外の中学校から鶏知中学校へ転校してきた私は、新しい環境、初めての学校生活、見えない人間関係へのプレッシャーや不安が限りなくありました。周りの目が気になってしまい、うまく振る舞うことができない日々。お互いに気を遣い、自分らしさを出せないで、会話に入っていけず、学校で一人の時間を過ごすことが多くなってしまいました。クラスになじめるようになるまでの時間は、辛く、苦しいものでした。きっと周りの友達も、どのよう

に接してよいのか戸惑っていたと思います。私がクラスになじめていけたのは、お互いのことを少しずつ知っていったからだと思います。休み時間のおしゃべりや、数々の行事を乗り越えていく中で、相手の好みや性格を知り、相手も同じように私を知ってくれる。初めは確かに、違いとか違和感をお互い感じてしまうかもしれませんが、知ろうとすること、受け入れようとするので、何事もなくなっていくと思います。

さまざまな「障がい」を理由に、相手のことを知ろうとしない自分はいませんか？じわじわと新しい環境や友達になじんでいくように、トランスジェンダーも障がいも、今ある差別問題も自然と社会の中に受け入れられてほしい。人と人では違うのが当たり前、一人一人の考え方、感じ方、性格も、容姿も、好きなもの、嫌いなものも違うのが当たり前。周りと同じであることを良しとして安心したりする社会より、みんな違うことを当たり前として、受け入れ、認め合う社会の方が何倍も楽しくて素敵なことだと思いませんか？見方を少しだけ変えてみる。自分との違いに興味を持つてみる。そして、何より自分の個性と同じくらい、周りの人の存在を大切にすることができる人でありたい。

私はそう考えるのです。

※原文のまま掲載

第22回対馬少年の主張大会結果

最優秀	鶏知中2年	薄本優
優秀	久田中2年	増田優唯
優良	豊玉中2年	俵美空
入選	佐須奈中2年	神宮愛香里
入選	巖原中2年	上野結海
入選	大船越中2年	犬束妃花
入選	豆酸中1年	近藤慶嗣
入選	東部中2年	清水圭典
入選	西部中2年	山崎希帆奈
入選	仁田中2年	糸瀬弥桜
入選	比田勝中1年	眞崎美羽

(敬称略)